

5.医療と介護の連携について



加賀市健康福祉部長寿課

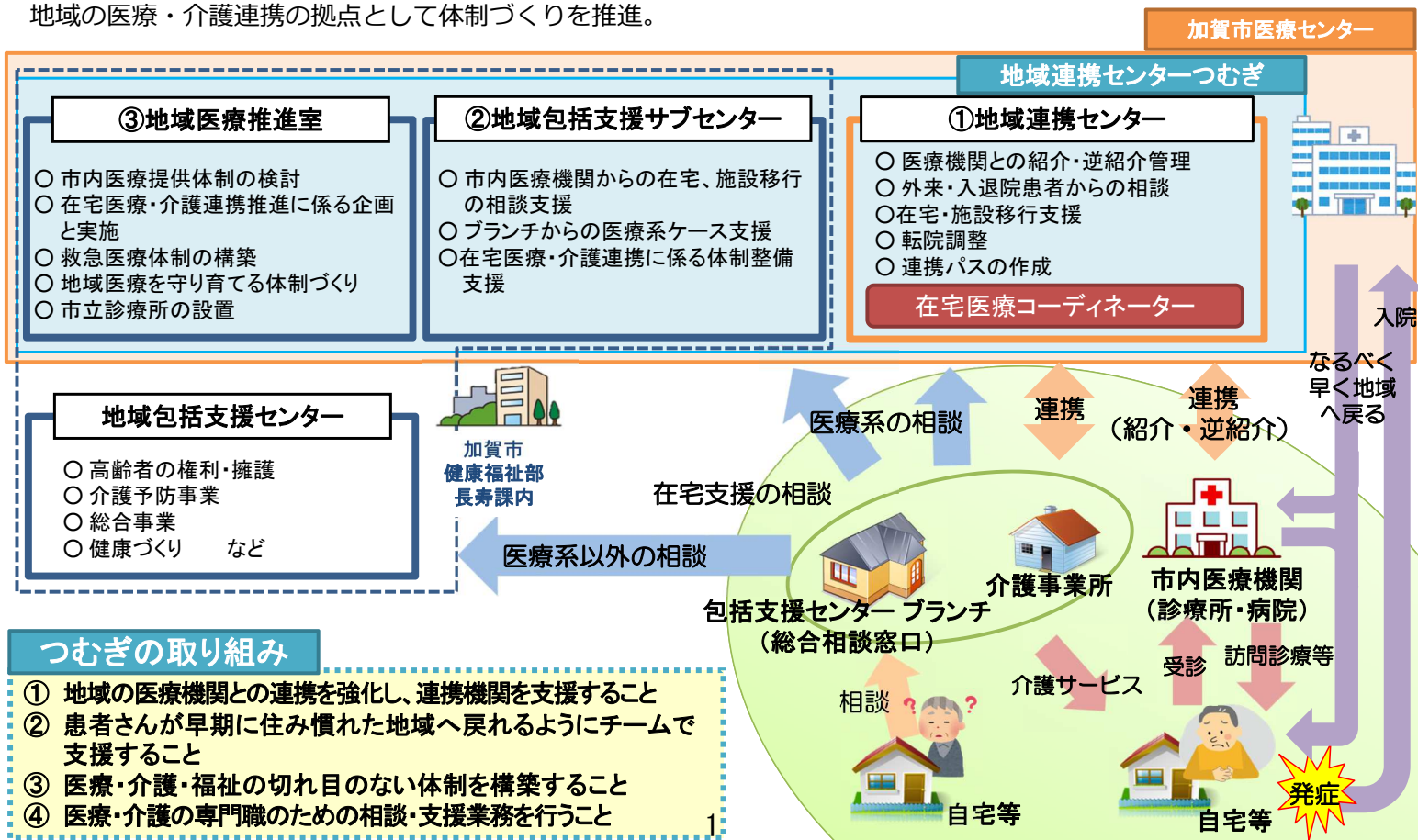
平成 31 年 2 月 21 日

第7期計画の取り組み

	項目	方向性
1	重症化予防の推進	・ 認定時の主要疾患（認知症、脳卒中、骨折、がん、筋骨格系疾患）の予防 ・ 生活習慣病の予防（特に脳卒中や認知症にも関係のある糖尿病や高血圧の予防） ⇒健康課との連携や介護予防事業の充実
2	支えあいのまちづくりの推進	・ 地域でつながることも予防と言われ、社会とのつながりがあることが予防の1つであることから、 ・ 元気高齢者の活躍の場づくりや担い手育成 ・ 地域ケア会議を活かした地域づくりへの展開
3	認知症の人とその家族を支える仕組みの推進	・ 認知症予防の取り組み（もの忘れ健診の実施、認知症予防体操の実施など） ・ キャラバン・メイトや認知症サポーターと、認知症の正しい理解の普及などの実施 ・ 認知症ケアパスの啓発普及
4	医療と介護の連携強化	・ 在宅医療コーディネーターによる医療と介護の連携強化 ・ 在宅医療や人生最期をどう迎えたいか等、住民への周知啓発
5	ケアの質の向上や人材の育成	・ 認知症対応力向上研修（中堅研修）の継続実施 ・ 生活視点（本人の～したい）に立った自立支援のケアマネジメントの強化及び推進（軒下マップの活用）

加賀市医療センター「地域連携センターつむぎ」の取り組み

加賀市医療センターの「地域連携センターつむぎ」内に、①病院の地域連携の機能、②地域包括支援センターの機能、③行政の地域医療施策の機能を併設。直接的な患者支援のほか、加賀市が描く地域包括ケアシステムの実現に向け、地域の医療・介護連携の拠点として体制づくりを推進。



在宅医療コーディネーターの取組

1. 相談対応(平成30年度1月時点)

- 相談件数……13件
- 相談者……ケアマネジャー、社会福祉士、保健師、看護師、訪問看護師
- 相談理由……自力での対応による課題解決困難
- 主な相談内容…医療・介護サービスに関すること
訪問看護に関すること
受診相談
治療継続に関すること
在宅療養生活の継続について
医療依存度が高くなったため、家族の介護負担を必要とした など

2. 院内職員へ暮らしの視点を持った研修

①患者の満足する生活を考え支える会(隔月開催)

【ねらい】

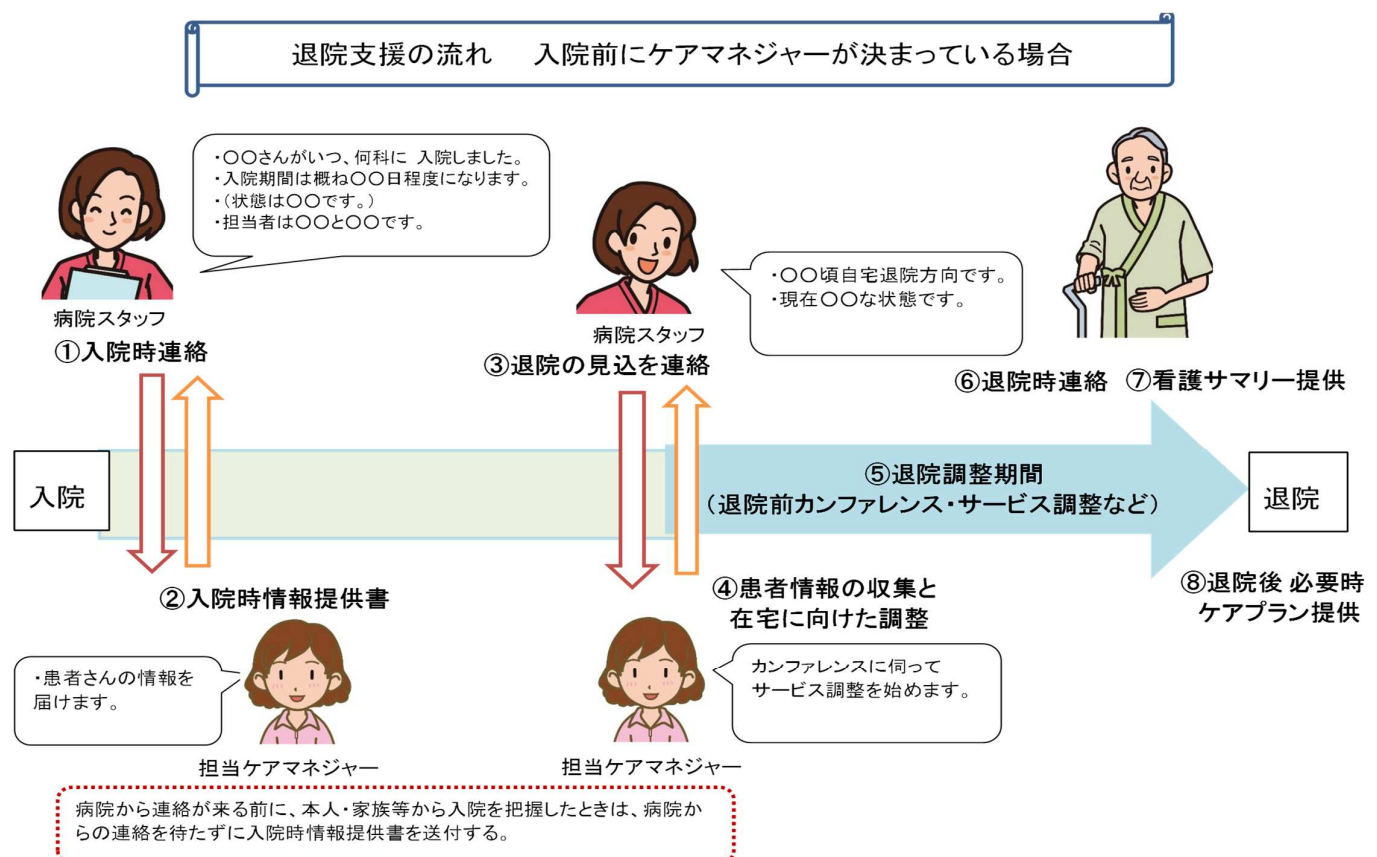
・患者がなるべく早く“本人が満足する生活”へ戻れるよう、在宅での療養生活を続けられるよう支援する病院となるため、生活に目を向けられる職員を育成し、自らが取り組むことができる

②退院支援研修会

3. 地域との連携強化のために

- ①訪問看護ステーション 資源マップ作成
- ②加賀市地域連携実務者連絡会で各医療機関との連携強化
- ③病院薬剤師とかかりつけ薬局との連携

4. 入院時から早期に医療・介護連携をスムーズに行うため、入院時からの情報共有をルール化



加賀市における在宅医療・介護連携の推進

「石川県医療計画」の趣旨に基づき、平成25年度から、加賀市医師会をはじめ市内の関係団体・機関が一体となって、在宅医療・介護の連携促進の取り組みを実施。平成27年度からは地域支援事業の「在宅医療・介護連携推進事業」の事業項目を協働して実施している。

在宅医療連携グループ 「加賀市在宅医療連携推進協議会」

加賀市医師会

加賀市歯科医師会

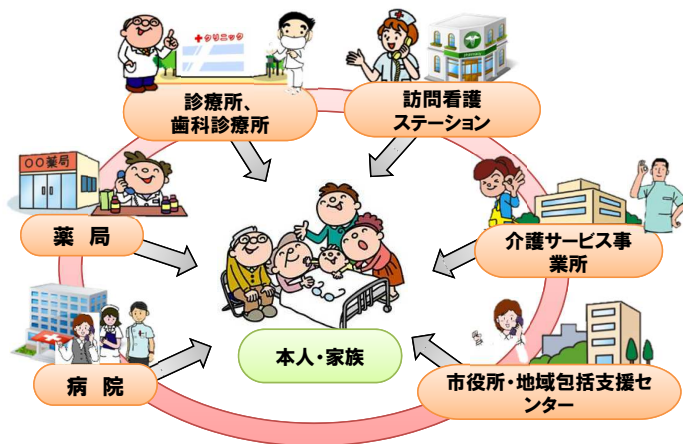
加賀市薬剤師会

加賀市介護サービス事業者協議会

病院

行政(加賀市)

医師会をはじめ、在宅患者本人と家族を支える関係団体・機関が互いに協力



※在宅医療連携グループ

「石川県医療計画」(平成25年4月)に定めるもの。地域における在宅医療・連携の関係者等が連携して推進に取り組む。医療計画では、人口7万～10万人に1グループ設置としている。

推進の体制

加賀市在宅医療連携推進協議会

幹事会

課題や今後の取組の方向性等を確認

構成(関係団体・機関の代表者・在宅医療の担当)

加賀市医師会	医療法人社団元気会 加賀たちばな元氣クリニック	橋 秀樹	加賀市介護サービス事業者協議会	医療法人社団長久会 加賀のぞみ園	原 種孝
加賀歯科医師会	医療法人萌和会 すずき歯科クリニック	鈴木 一	病院(中核病院)	加賀市医療センター	白崎 直樹
石川県薬剤師会加賀支部	有限会社トラヤ薬局	宮河 哲夫	行政(加賀市)	加賀市健康福祉部	高川 義博

ワーキンググループ

医療・介護連携の課題把握、対応検討 (医療と介護の連携ワーキング)

- ねらい：① 医療と介護の連携が目指す方向の共有
② ①のために、自分たち専門職ができることを考え、取り組む
⇒ 医療と介護の連携の課題について、自分たち(当事者どうし)
で課題解決する自主的な取り組みができる

- 実施内容：① これまでの検討会等で出された各職種やサービス、問題点等をもとに課題解決に向けた取組等を検討
② コーディネーターへの相談内容から課題を抽出
③ 在宅医療の資源情報の把握・共有
④ 研修会、事例を用いた勉強会等、必要な対応の検討(次年度以降の計画含む)

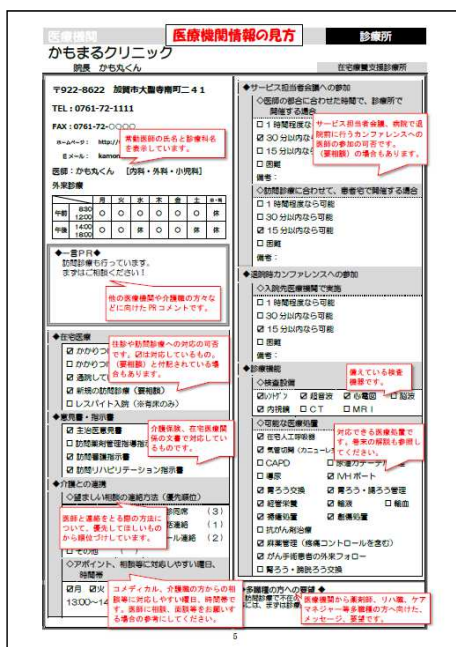


メンバー：医師、歯科医師、薬剤師、看護師(訪問看護、病棟、地域連携部門、在宅医療コーディネーター)、ケアマネジャー、介護福祉士等

在宅医療の資源の把握と共有

在宅医療の資源情報をまとめ、関係者に配布

- 医療と介護の連携を円滑なものとするための一つのツールとして作成
- 医師会でアンケートを実施し、冊子にまとめたもの。
- 冊子を作成するにあたっては、多職種参加のワーキングでもレイアウトなどを協議
- 市内の医療、介護関係者間でのみ情報を共有する前提で作成
- **歯科医院・薬局情報の掲載検討**
- **加賀市在宅医療連携推進協議会HPに掲載検討**



- 掲載項目
- 診療日、診療時間
 - 往診、訪問診療の可否
 - 主治医意見書、各指示書等の対応の可否
 - 医師との連絡手段の優先順位
 - アポイントの取りやすい曜日や時間帯
 - サービス担当者会議等への参加の可否
 - 検査機器
 - 対応できる処置
 - PR など

専門職向けの研修会・勉強会

平成30年度 医療と介護の合同勉強会

【目的】

- ① 事例を通じて実践力を高める
 - ② 顔を合わせ話ができる機会を持つことで、多職種によるチームケアにつながる
（“意見の言い合える関係”をつくる）
- ⇒ 住民(患者・利用者)の生活に生かすことができる

	実施日	テーマ	形式	参加者数
①	H30.6.7	【合同勉強会】 平成30年度ダブル改定からみえる地域包括ケアシステムの推進に向けて	講義	84
②	H30.9.20	【合同勉強会】 独居の看取りを考えよう	グループワーク	58
③	H30.12.17	【合同勉強会】 人生の最終段階における医療とケアの意思決定を考えよう	グループワーク	64

勉強会を通じてできたこと

- ① 事例を通じて実践力を高める
 - 他の職種の理解
互いの分野を理解し、役割・活動・苦勞・捉え方・視点などが分かった
 - 本人の意向に寄り添った支援
本人の意思を尊重した支援を学ぶことが出来た
- ② 顔を合わせて話ができる機会をもつことで、多職種によるチームケアにつながる
(意見の言い合える関係をつくる)
 - 多職種の顔の見える関係の広がり
医療側は介護側の取り組む姿勢が見えてきた
介護側は他の職種との話し合える関係性ができた
 - 多職種によるチームケアの大切さ
多職種がチームとなって、本人・家族の意向に寄り添った支援をする大切さが分かった



市民への周知啓発

かが健幸長寿講座

医療センターで月1回実施

「在宅医療とものがたり」
～この街で最期まで自分らしく過ごすために～



講師

さとう のぶひこ

佐藤 伸彦

先生(医療法人社団ナラティブホーム
ものがたり診療所)

日時

平成31年1月26日(土) 午後1時30分～

会場

加賀市医療センター KMCホール

参加者アンケートから

- 「人の命は地球より重い」に考えさせられた
- 在宅医療の大切さや良さを知ることが出来た
- 今まで生きてきた人生を最期どのようにすればよい
か考えていきたい
- これからも高齢者社会は続いていくが、夫婦の間で
も子ども達との間でも人生の最期をどう過ごしていく
か話し合っていきたい



今後の課題

医療と介護の連携ワーキングより

➤ 医療に関すること

- 患者の入院期間の見通しの説明が必要
- 入院の度に本人のADLは低下するが、家族の意向(入院前の姿に戻ってほしい)との認識のずれに対しての説明について
- 救急入院したときの本人の情報が分からない
- 医療調整ができていないときの退院

➤ 介護に関すること

- 医療の知識が不足している
- 患者が退院してもすぐに入院になる

➤ 市民に関すること

- 医療と介護の知識の底上げが必要
- 明らかに軽度な症状なのに受診する
- 医療提供体制の制度の変化に気付いていない(関心がない)

加賀市の在宅医療・介護連携推進事業

【加賀市 在宅医療・介護連携推進事業】

実施主体: 加賀市



一部委託: 加賀市医師会

(ア) 地域の医療・介護の資源の把握

- ◇在宅医療資源情報を冊子にまとめ関係者に配布
- ◇歯科医院・薬局情報の追加検討

(イ) 在宅医療・介護連携の課題の把握と対応策等の検討

- ①医療と介護の連携ワーキング
- ◇医療と介護の連携上の課題の解決に向けた検討
- ◇事例を用いた勉強会の企画
- ②加賀市在宅医療連携推進協議会 幹事会
- ◇取組状況の確認、情報共有

(ウ) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進

- ◇入院時からの情報共有ルール化の策定
- ◇加賀市地域連携実務者連絡会等で医療・介護が互いに必要な情報項目の検討を行う

(エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援

- ◇加賀市医師会が求める情報(経過記録・サマリ)を開示することで、既存ツール改善を図りICTを用いた医療介護情報共有(ID-Link)の利用推進

(オ) 在宅医療・介護連携の相談支援

- ◇地域連携センターつむぎを相談支援の窓口に位置づけ在宅医療コーディネーターを配置
- ◇随時相談

(カ) 医療・介護関係者の研修

- ◇多職種による事例を用いた勉強会

- ◇かかりつけ医等認知症対応力向上研修 地域事例検討会

- ◇脳卒中地域連携パス研修会

(キ) 地域住民への普及啓発

- ◇かが健幸長寿講座、説明会 等
- 講演:「在宅医療とものがたり」
- ～この街で最期まで自分らしく過ごすために～
- 講師: 医療法人社団ナラティブホーム
- ものがたり診療所
- 所長 佐藤 伸彦 氏
- ◇かもまる講座等
- 内容: 加賀市における救急医療の現状報告、在宅医療と医療提供体制等について

(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携

- ◇県内他市町の取組状況について情報交換
- ◇加賀地区地域リーダー研修会(南加賀)
- ◇加賀地区県民公開講座(南加賀)

【石川県 認知症対策事業】

実施主体: 石川県



委託: 郡市医師会

- ◇かかりつけ医等認知症対応力向上研修 地域事例検討会

【加賀脳卒中地域連携協議会事業】

実施主体: 加賀脳卒中地域連携協議会・在宅医療連携グループ共催

- ◇脳卒中地域連携パス研修会

【石川県医師会 在宅医療推進事業】

実施主体: 石川県医師会



企画運営の委任: 郡市医師会、在宅医療連携グループ

- ◇加賀地区地域リーダー研修会
- ◇加賀地区県民公開講座
- ※実施方針は未定